

静岡県の肝炎対策

～計画の目標設定と市町との協働～

平成27年9月29日

静岡県 健康福祉部

疾病対策課長 奈良 雅文



静岡県内 肝炎の状況

- 静岡県内 肝炎の状況
- 静岡県肝炎対策推進計画(第2期)の策定
- 「たたけ！肝炎ウイルス」の実施

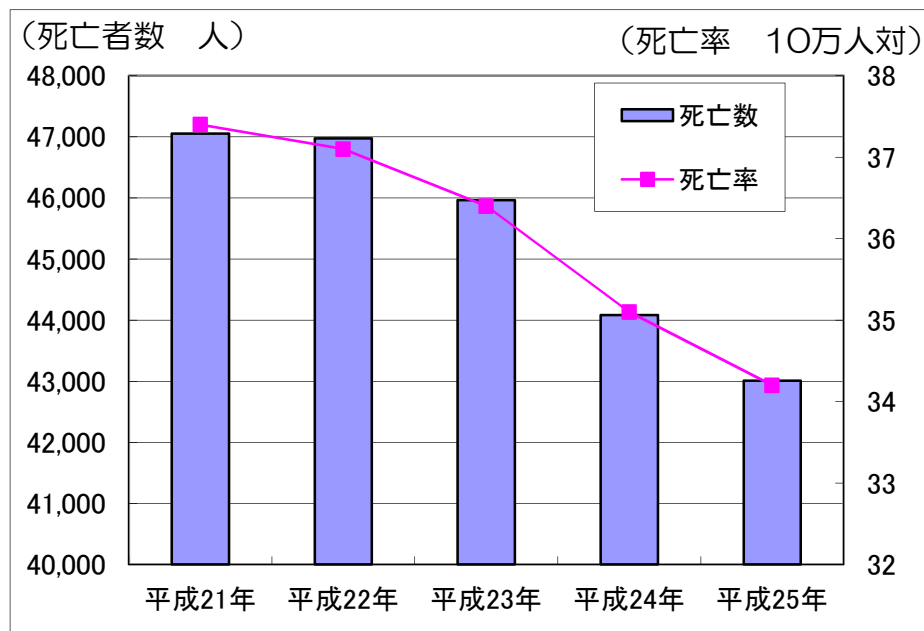


1 静岡県内 肝炎の状況

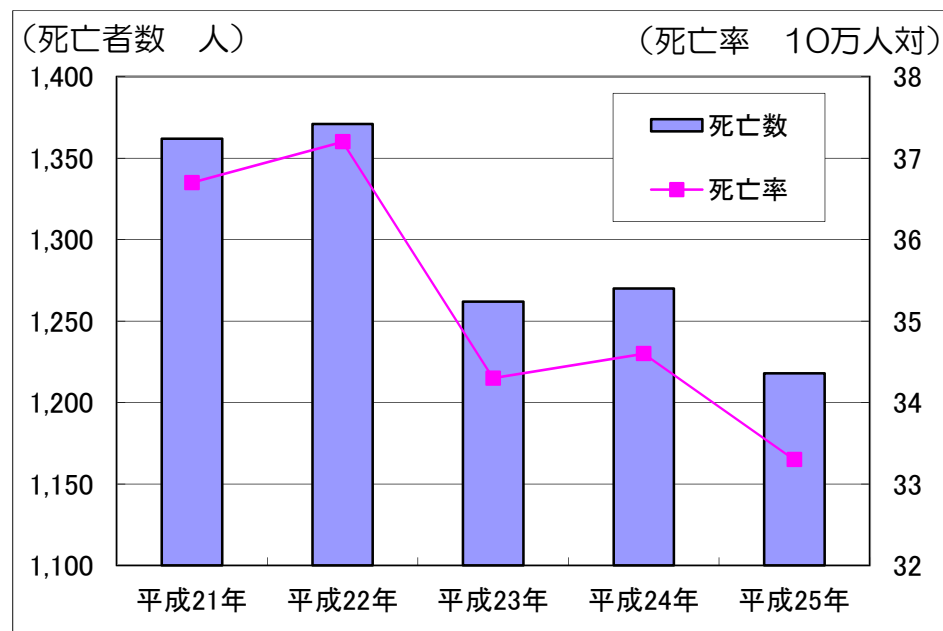
肝疾患による
死亡者数・死亡率の推移

肝疾患死亡率・死亡者数の推移

全国



静岡県



出典：人口動態調査（厚生労働省）

富国有徳の理想郷－しずおか

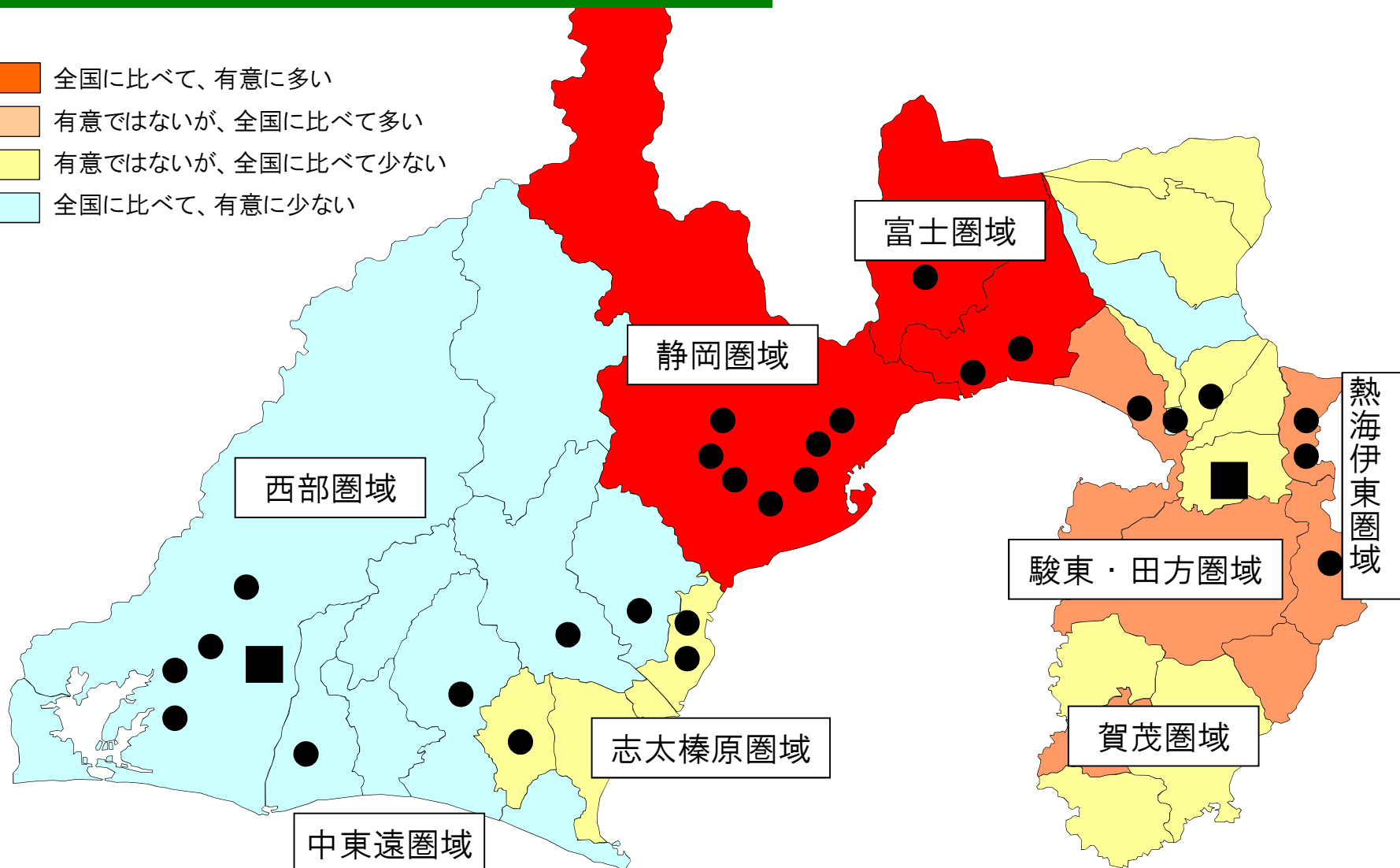
ふじのくに



1 静岡県内 肝炎の状況

県内地域別 肝疾患 患者数

- 全国に比べて、有意に多い
- 有意ではないが、全国に比べて多い
- 有意ではないが、全国に比べて少ない
- 全国に比べて、有意に少ない



■ ● 地域肝疾患診療連携拠点病院

富国 有徳の理想郷 - しずおか

ふじのくに



静岡県肝炎対策推進計画 (第2期) の策定

- 静岡県内 肝炎の状況
- 静岡県肝炎対策推進計画(第2期)の策定
- 「たたけ！肝炎ウイルス」の実施



2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

計画の策定期間

静岡県肝炎対策推進計画

第1期：平成24年3月～平成27年3月

第2期：平成27年4月～平成30年3月

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
静岡県肝炎対策推進計画(第1期)					
			静岡県肝炎対策推進計画(第2期)		



2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

第1期計画 目標の達成状況

第1期計画では、計画の目的を「肝疾患死亡率（人口10万対）を低減する」こととし、目的を達成するための対策について、4本柱を定め、それぞれの柱に、対策の方向性、数値目標を設定した。

計画の目的である「肝疾患死亡率を低減する」については、平成20年～24年にかけて低減しており、目的は達成できた。

また、数値目標につきましては、一部未達成の項目もあるが、目標数値については概ね良化している。

目 的	実 績	達成状況
肝疾患死亡率（人口10万対）を低減	平成20年～24年にかけて、38.6から34.0に低減	◎



2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

第1期計画 目標の達成状況

数値目標		実績	達成状況
目標1	日本肝炎デー・肝臓週間を中心とする普及啓発を医療圏ごと年1回以上実施	普及啓発活動を全医療圏で計20回(H24)、42回(H25)実施。	◎
目標2	肝炎ウイルス検査の陽性者へ肝臓病手帳を交付する地域肝疾患診療連携拠点病院を100%にする	64.3%(平成25年度末18/28地域拠点病院)	△
目標3	インターフェロン治療の地域連携クリティカルパスを導入する地域肝疾患診療連携拠点病院(29病院)を100%にする。	富士、静岡市(一部)、中東遠、志太榛原圏域において、導入済み(51.7%(15/29地域拠点病院))	△
目標4	相談会・交流会を医療圏ごと年1回以上実施。	平成24年度は、保健所における医療相談・交流会を5医療圏、5回実施。平成25年度は、7医療圏、10回開催。平成25年度未実施の静岡医療圏については、実施に向け準備中。	○

(凡例) ◎…達成 ○…概ね達成 △…未達成



静岡県肝炎対策推進計画（第1期）

目的

肝疾患死亡率（人口10万人対）を低減する

四本柱

1 肝炎に関する普及啓発と感染予防の推進

- すべての県民に対して、肝炎の正しい知識を周知
- 日本肝炎デー・肝臓週間を中心とする普及啓発を医療圏ごと年1回以上実施

- 肝炎に対する正しい知識の普及啓発
 - 日本肝炎デーと肝臓週間の取り組み
 - リーフレット、ポスターの作成・配布
 - 広報誌、マスメディアの活用
 - 講演会等の開催
 - 関係機関との連携

- 感染リスクがある年齢層を対象とした予防のための普及啓発
 - 若年層への予防啓発
 - 妊婦検診の受診勧奨 等

◎ 8医療圏で42回実施

2 肝炎ウイルス検査の受検勧奨と検査陽性者に対する受診勧奨

- すべての県民に対して、肝炎ウイルス検査を生涯1回以上受検するよう勧奨
- 肝炎ウイルス検査の陽性者へ肝臓病手帳を交付する地域肝疾患診療連携拠点病院を100%にする

- 肝炎ウイルス検査の周知と受検勧奨
 - 肝炎ウイルス検査を周知するための広報等の実施
 - 肝炎ウイルス検査の受検勧奨
 - 肝炎ウイルス検査の環境整備
 - 肝炎ウイルス検査の受検率調査

- 肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨
 - 肝臓病手帳の活用

△ 肝臓病手帳
18/28地域拠点病院で交付

3 肝炎医療を提供する体制の確保

- 地域肝疾患診療連携拠点病院と肝疾患かかりつけ医を周知。
- インターフェロン治療の地域連携クリティカルパスを導入する地域肝疾患診療連携拠点病院を100%にする

- 肝炎医療連携体制の拡充
 - 地域連携クリティカルパスの導入支援
 - 肝疾患かかりつけ医の周知

- 拠点病院事業の充実と肝炎医療に携わる人材の育成
 - 肝炎治療に携わる人材の育成
 - 地域・職域における支援者の育成
 - 肝疾患診療連携拠点病院等連携連絡協議会の開催

- 肝炎医療費助成制度の実施
 - 肝炎治療特別促進事業の円滑な実施

△ クリティカルパス
15/29地域拠点病院で導入

4 肝炎患者等に対する相談支援や情報提供の充実

- 肝炎患者等の不安や精神的負担を軽減
- 日本肝炎デー・肝臓週間を中心とする普及啓発を医療圏ごと年1回以上実施

- 肝炎患者等に対する支援の充実
 - 保健所等における支援の充実
 - 肝疾患相談支援センターの活用
 - 患者家族のための相談会・交流会の開催
 - 肝炎に対する情報の提供

- 肝炎患者等の人権の尊重
 - 人権相談窓口の周知と活用
 - 国ガイドラインによる普及啓発

○ 7/8医療圏で
計10回開催

目標

具体的な
取り組み

成果

2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

肝炎対策推進計画
見直しの考え方

第2期計画についても目標は変更せず、
「肝疾患死亡率の低減」とする

＜第2期計画の目標＞

肝疾患死亡率（人口10万人あたり）

平成25年：33.3→

平成28年：30.3に低減する。



2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

第2期 肝炎対策推進計画 における取組

目的 肝疾患死亡率（人口10万人対）を低減する

目的を実現するための「4本の柱」

柱ごとの「対策の方向性」

数値目標の設定

具体的な取り組み

内容を一部修正

「対策の方向性」を整理

「数値目標」を一新

「4本の柱」ごとに具体的な取り組みを記載

1 肝炎に関する正しい知識の普及と新規感染予防の推進

肝炎の病態や感染経路等に関する県民の理解を深めることで、肝炎に関する偏見や差別を解消するとともに、新規の感染を予防する。

最近1年間に差別の経験をした肝炎患者の割合を5%以下にする。

●講演会等の開催

- 肝炎に関する正しい知識の普及のための一般県民や患者・家族向けの講演会の実施
- 肝疾患診療連携拠点病院や患者会との共催による医療相談会等の開催

●ハイリスク者への予防啓発

- 中学、高校における思春期講座等の機会を活用した感染予防のための知識の普及



静岡県肝炎対策推進計画（第2期）

目的

肝疾患死亡率（人口10万人対）を低減する

四本柱

対策の
方向性

数値目
標

具体的
な
取組み

1 肝炎に関する正しい知識の普及と新規感染予防の推進

肝炎の病態や感染経路等に関する県民の理解を深めることで、肝炎に関する偏見や差別を解消するとともに、新規の感染を予防する。

最近1年間に差別の経験をした肝炎患者の割合を5%以下にする。

●講演会等の開催

- 肝炎に関する正しい知識の普及のための一般県民や患者・家族向けの講演会の実施
- 肝疾患診療連携拠点病院や患者会との共催による医療相談会等の開催

●ハイリスク者への予防啓発

- 中学、高校における思春期講座等の機会を活用した感染予防のための知識の普及

2 肝炎ウイルス検査の受検勧奨と検査陽性者に対する受診勧奨

県民が肝炎ウイルス検査の必要性を自覚し、生涯に一度は検査を受検するよう勧奨するとともに、検査陽性者の定期的、継続的な受診に向けたフォローアップを行う。

肝炎ウイルス検査陽性者に対するフォローアップをすべての保健所、市町で実施する。

●肝炎ウイルス検査の受検勧奨

- 肝炎ウイルス検査を周知するための広報等の実施
- 肝炎ウイルス検査の環境整備

●肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨

- 検査陽性者に対する受診勧奨や初回精密検査費用助成によるフォローアップの実施

3 肝炎医療を提供する体制の確保

肝炎患者等が、身近な医療機関で適切な医療を継続して受けられる体制を確保する。

肝疾患かかりつけ医研修の受講率を100%にする。

●肝炎医療連携体制の拡充

- 肝疾患かかりつけ医の周知及びかかりつけ医研修の開催
- 肝臓病手帳を活用した肝疾患かかりつけ医と拠点病院の連携促進

●肝炎医療に携わる人材の育成

- 地域・職域における支援者の育成のための研修会の開催

4 肝炎患者等及びその家族に対する支援充実

肝炎患者等及びその家族の経済的負担や不安を軽減できるよう支援する。

肝臓病を患うことによる悩みやストレスのある肝炎患者の割合を30%以下にする。

●肝炎医療費助成の実施

- 肝炎患者の経済的負担の軽減

●肝炎患者等及びその家族に対する相談支援の実施

- 肝疾患相談支援センターや保健所における相談支援
- 保健所における患者家族のための相談会・交流会の開催
- 患者会活動の紹介

肝炎に対する正しい知識の普及と 新規感染予防の推進

対策の方向性

肝炎の病態や感染経路等に関する県民の理解を深めることで、肝炎に関する偏見や差別を解消するとともに、ハイリスク者の感染を予防する。

数値目標

最近1年間に差別の経験をした肝炎患者の割合を5%以下にする。

現状値：8.9%（平成26年度調査結果）



肝炎ウイルス検査の受検勧奨と 検査陽性者に対する受診勧奨

対策の方向性

県民が肝炎ウイルス検査の必要性を自覚し、生涯に一度は検査を受検するよう勧奨するとともに、検査陽性者の定期的、継続的な受診に向けたフォローアップを行う。

数値目標

肝炎ウイルス検査陽性者に対するフォローアップをすべての検査実施主体で実施する。

現状値：35市町中32市町で実施（実施率91.4%）

県保健所すべてで実施（実施率100%）



肝炎医療を提供する体制の確保

対策の方向性

肝炎患者等が、身近な医療機関で適切な医療を継続して受けられる体制を確保する。

数値目標

肝疾患かかりつけ医研修の受講率を100%にする。

現状値：76.9%（273医療機関中210医療機関受講）



肝炎患者等及びその家族に対する支援の充実

対策の方向性

肝炎患者等及びその家族の経済的負担や不安を軽減できるよう支援する。

数値目標

肝臓病を患うことによる悩みやストレスのある肝炎患者数の割合を30%以下にする。

現状値：43.8%（平成26年度調査結果）

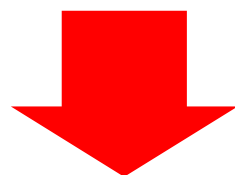


2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

肝炎医療費助成受給者概要調査

【肝炎医療費助成受給者状況調査の概要】

- 対象者：下記期間内に受給者証を交付した肝炎治療受給者
- 目的：静岡県における肝炎に関する差別やストレス・悩み等の有無、肝臓病手帳の利用状況等の実態把握
- 調査主体：静岡県疾病対策課
- 期間：H26.9.1～H26.10.30
- 調査：調査票配布 431人 回答 112人
回答率 25.98%



今後3年間 毎年同じ調査を実施し、

推進計画の数値目標達成状況を評価する。



2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

肝炎医療費助成受給者概要調査

調査項目 回収率向上のため、簡潔な質問、A4一枚に集約

<問1> 患者様の性別、年代、病名を教えてください。

性別 男 ・ 女 年代 30歳未満・30歳代・40歳代・
50歳代・60歳代・70歳代・80歳以上

病名 B型肝炎患者（慢性肝炎・肝硬変）・C型肝炎患者（慢性肝炎・肝硬変）

<問2> 肝臓病で病院にかかり始めて何年くらいたちますか。

肝臓病で病院にかかっている年数 約 年

<問3> 肝炎ウイルスに感染していることで、差別を受けるなど嫌な思いをしたことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1 昔、ある 2 最近1年間に、ある 3 特にない 4 わからない
それはどのようなことですか。差し支えない範囲で教えてください。

<問4> 現在、日常生活の中で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか。

1 ある 2 特にない 3 わからない
それはどのようなことですか。差し支えない範囲で教えてください。

<問5> 『肝臓病手帳』について、あてはまるものに○をつけてください。

1 手帳をもっており、使っている 2 手帳をもってはいるが、使っていない
3 手帳について知っているが、もっていない 4 手帳について知らない



2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

肝炎医療費助成受給者概要調査

＜問3＞ 肝炎ウイルスに感染していることで、差別を受けるなど嫌な思いをしたことがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

- 1 昔、ある 2 最近1年間に、ある 3 特にない 4 わからない
それはどのようなことですか。差し支えない範囲で教えてください。

項目	人数	割合%
昔、あった	17	15.2
最近1年間に ある	10	8.9
特にない	72	64.3
わからない	11	9.8
未回答	2	1.8

時期	性別	年齢	内容
最近1年	男性	30歳代	病気に理解の無い人から、食事のときや体が接触した際に嫌な顔をされた。
	女性	70歳代	B型肝炎について、知識の不足からか、悪い内容を話す人がいた。
昔	女性	50歳代	出産で入院中に、看護師の対応に差別を感じた。食器も使い捨てを使わされた。
	男性	50歳代	自前の箸を洗った際に、後ろの人は水道を使わなかった。
	女性	70歳代	パート面接時に、すぐにでも採用したいと言っていたのに、肝炎であることを告げたら、不採用となった。

計画の柱1 数値目標のベースラインとして活用



2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

肝炎医療費助成受給者概要調査

＜問4＞現在、日常生活の中で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか。

- 1 ある 2 特にない 3 わからない
それはどのようなことですか。差し支えない範囲で教えてください。

項目	人数	割合%
ある	49	43.8
特にない	50	44.6
わからない	9	8.0
未回答	4	3.6

性別	年齢	内容
男性	60歳代	他人への感染の心配
女性	50歳代	薬をいつまで飲み続ける必要があるのか。体調不良。
女性	60歳代	将来の健康への不安
男性	60歳代	肝硬変、肝がんへの進行についての不安
男性	50歳代	医療費助成を受けていても経済的に困窮している。

計画の柱4 数値目標のベースラインとして活用

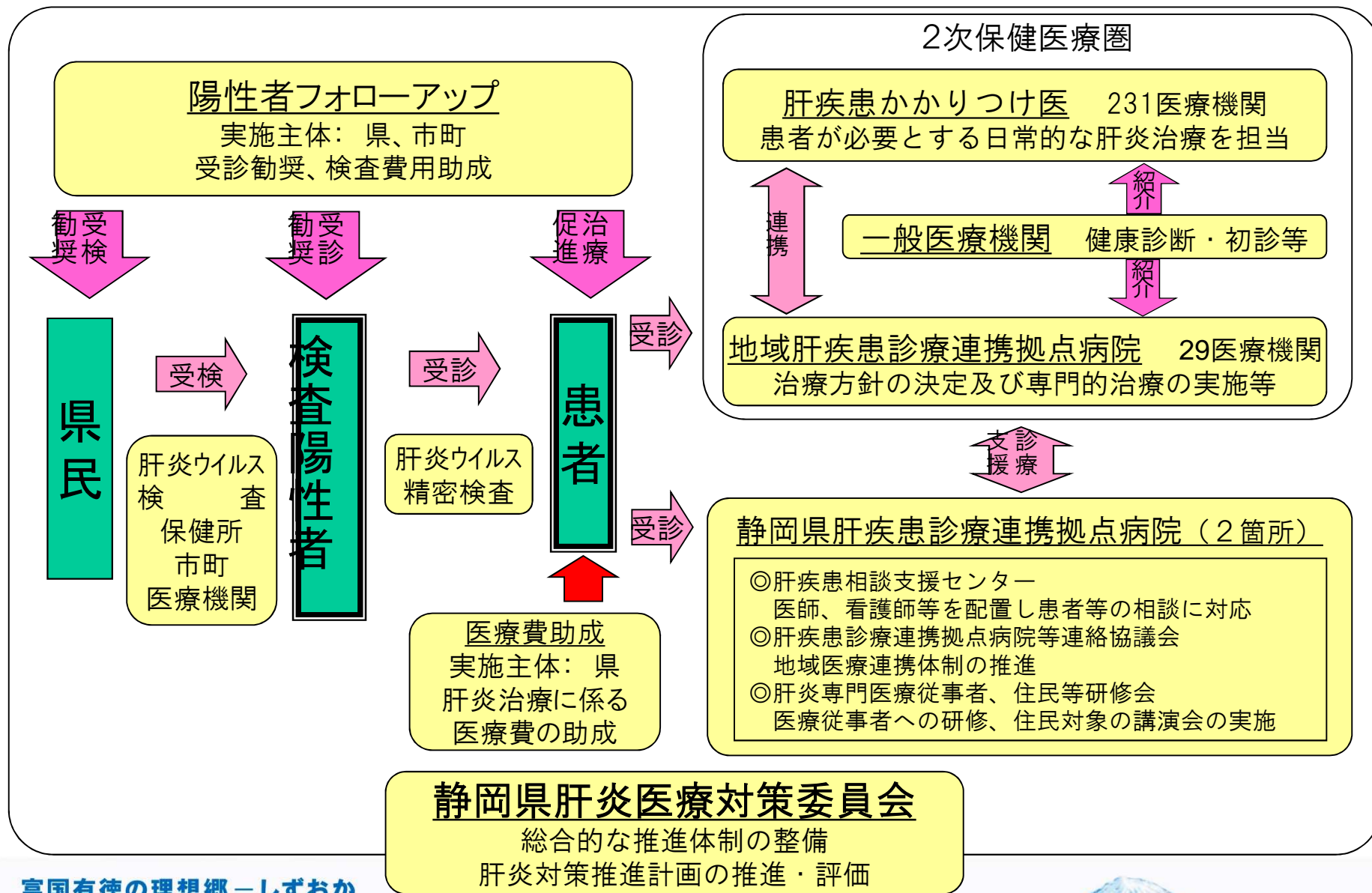
富国有徳の理想郷－しずおか

ふじのくに



2 静岡県肝炎推進計画（第2期）

肝炎対策推進体制



「たたけ！肝炎ウイルス」 の実施

- 静岡県内 肝炎の状況
- 静岡県肝炎対策推進計画(第2期)の策定
- 「たたけ！肝炎ウイルス」の実施



3 「たたけ！肝炎ウイルス」

取組の概要

効率的な肝炎ウイルス検査陽性者
フォローアップシステム構築のための研究（佐賀分科会）

？なぜ
「肝炎ウイルス陽性」判明後受療率が向上しないのか

「重大性・必要性・緊急性」 ↓ に関する認知不足

効果的に受療を促進するためには、医療のみならずマ
ーケティングの理論を応用して、対象者に合わせた情
報発信が不可欠



3 「ただけ！肝炎ウイルス」

市町との協力

市町担当者会議で佐賀分科会の取り組みを紹介し、
市町の協力を依頼

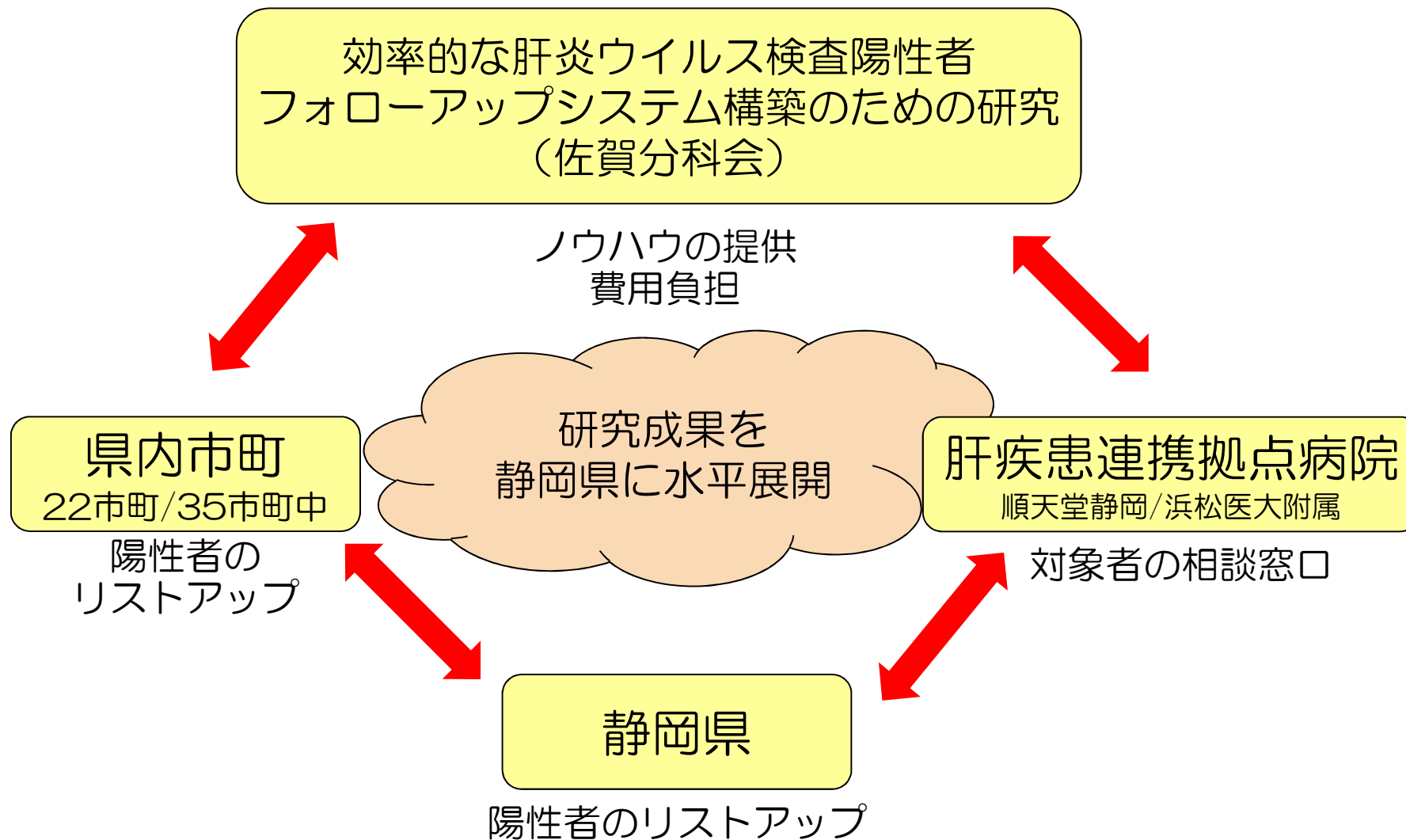
市町の負担は「送付先の陽性者リスト」の作製のみ

- 費用（印刷、郵送費）は研究班負担
→市町の費用負担は一切なし
- 研究班で封筒への封入まで実施し、市町が宛名ラベルの印刷・貼付を実施
→陽性者の個人情報化市町外に一切出ない
- パンフレットは、拠点病院の相談窓口のみ記載
→陽性者から市町への問い合わせを行わない



3 「たたけ！肝炎ウイルス」

役割分担

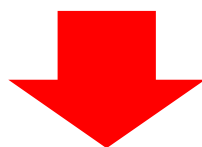


3 「たたけ！肝炎ウイルス」

市町との協力

静岡県、各市町で過去HCV陽性者と判明した人
に対して、受療勧奨パンフレットを郵送

- 過去の治療で完治しなかった人
- 「陽性」と診断されたまま、放置している人
- インターフェロン治療の入院や副作用から治療を躊躇していた人



HCVを駆除するチャンス
医療機関の受診を強く「勧奨」



3 「たたけ！肝炎ウイルス」

リーフレット

リーフレットの内容

- 肝炎ウイルスは肝炎、肝硬変、肝がんの原因となること。
- ウイルス性肝炎は治療しないと治らないこと。
- 完治が見込める薬が出たこと。
- 月額1万円、2万円で治療できること。

